2020 年 6 月 19 日

大正大学地域構想研究所・BSR 推進センター

「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」単純集計の結果報告

このたびは弊センターによる「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。517 名もの方にご回答をいただくことができました。

本調査は主に以下の目的から企画いたしました。

① 葬儀等の儀礼の簡略化が進んでいたなかでの今回のコロナ禍によって、今、大きく儀礼が変容する転換点にあるかもしれないという仮説に立ち、コロナによる影響とそれへの対応を把握する。

② 宗派ごとにガイドライン等が出されていますが、個々の寺院では感染予防や檀家ケアに苦慮しているのが現実だと思われますので、現時点での実践知・経験知を集約して、それをシェアすることで各寺院の参考にしてもらう。

③ 同様に現時点で個々の寺院が抱える不安や課題を集約、可視化する。

④ 宗教者の目立つ活動、発信力ある宗教者がメディア等では取り上げられますが、檀信徒等を対象とした地味で地道な活動（不安にある人々へのメッセージ発信）こそ個々の寺院・僧侶の社会的責任として収集していきたい。

⑤ 回答者に追跡調査を実施し、今回の変化・対応、また課題が中長期的にどう変遷していくのかを追っていきたい。

本報告では、回答を単純集計した結果のほか、自由記述に関しては、弊センターにおいて分類をいたしました。ウイルス対策、法要等の対応、不安・課題、メッセージ、ご意見などは、調査目的にありますように、各寺院の参考に資するため、また、集約・可視化のために、できる限り多くの回答を掲載したいと考えておりました。しかし、私たちの予想を超える多くの回答をいただきましたため、全てを掲載することができません。ご了承いただければと存じます。

回答からは、多くのご寺院が、檀信徒の感染対策、感染予防のための法務・行事の変更に苦慮されている現実、同時に檀信徒も葬儀・法要への参加に悩まれていることが察せられます。一方、人々の心が大きく揺らぐなかで、あらためて寺院の存在意義を見出される前向きなご意見や人々に仏教に基づくメッセージを発せられている事例を数多くいただき、仏教・寺院の持つ大きな力を感じられるのではと思います。

なお、⑤に関しては、今後、回答いただいた皆さまを対象に、経過について改めて調査をさせていただければと考えております（時期未定）。もちろん回答は任意となりますが、その際はご協力いただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

目　次

調査概要・回答者属性 …3 頁

（1）葬儀についてどのような変化がありますか。 …4 頁

（2）法事についてどのような変化がありますか。 …5 頁

（3）葬儀や法事の際に特別に取っている対応はありますか。 …6 頁

（4）現在、以下の檀務・法務・定例行事をどのように行っていますか。 …7 頁

（5）（4）のいずれかの項目で「形を変えて行なっている」を選択した方にお尋ねします。どのように行っているか具体的に教えてください。 …8 頁

（6）これまでにお尋ねした以外で影響のあった行事はありますか。あれば、どのような影響か具体的に教えてください。 …10 頁

（7）檀家・門徒・信徒の方々からの新型コロナウイルスに関する相談を受けていますか。あれば、具体的に教えてください。 …12 頁

（8）新型コロナウイルスの影響を受けて、今後の法務にどのような変化があるか、気になっていることや心配なことを教えてください。 …15 頁

（9）新型コロナウイルスの影響を受けて、新たにはじめたことがあれば教えてください。 …19 頁

（１０）現在まだはじめていないが、今後取りうる対応があれば教えてください。 …23 頁

（１１）あなたが現在までに取り組んでいることについてお尋ねします。新型コロナウイルスに関して、檀家・門徒・信徒を問わず、人々にすでに伝えていることはありますか。あれば、どのような方法でどのようなことを伝えているか教えてください。 …27 頁

（１２）あなたが今後取り組んでいきたいと考えていることについてお尋ねします。新型コロナウイルスに関して、檀家・門徒・信徒を問わず、人々にこれから伝えたいと思うことはありますか。あれば、どのような方法でどのようなことを伝えたいか教えてください。 …34 頁

（１３）上記以外にご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。 …38 頁

○調査概要

・方法：インターネットによる WEB アンケート
アンケートページアドレス：https://forms.gle/Wq5rhNqe6uXjC36S6

・調査期間：2020 年 5 月 7 日（木） ～5 月 24 日（日）
（※大正大学地域構想研究所ホームページへの掲載日）

・有効回答数：517 名
519 件の回答があったが、メールアドレスの重複が 2 件あり、それぞれ
回答日時の新しいものを採用し、古いものを削除した。

○回答者属性

・所属宗派

浄土真宗（各派）	191
浄土宗（各派）	149
曹洞宗	38
真言系（各派）	36
日蓮宗	30
臨済宗（各派）	22
黄檗宗	17
天台宗	15
時宗	9
その他	8
融通念仏宗	2
合計	517

・寺院の所在地

北海道	17	石川県	10	岡山県	0
青森県	8	福井県	4	広島県	11
岩手県	3	山梨県	5	山口県	7
宮城県	5	長野県	4	徳島県	0
秋田県	10	岐阜県	4	香川県	6
山形県	10	静岡県	29	愛媛県	5
福島県	11	愛知県	27	高知県	2
茨城県	12	三重県	13	福岡県	17
栃木県	5	滋賀県	21	佐賀県	5
群馬県	7	京都府	18	長崎県	5
埼玉県	17	大阪府	35	熊本県	4
千葉県	14	兵庫県	20	大分県	5
東京都	63	奈良県	7	宮崎県	2
神奈川県	34	和歌山県	2	鹿児島県	2
新潟県	5	鳥取県	1	沖縄県	0
富山県	20	島根県	4	その他	1
				合計	517

・立場

住職	350
副住職	131
寺庭（坊守）	11
その他	25
合計	517

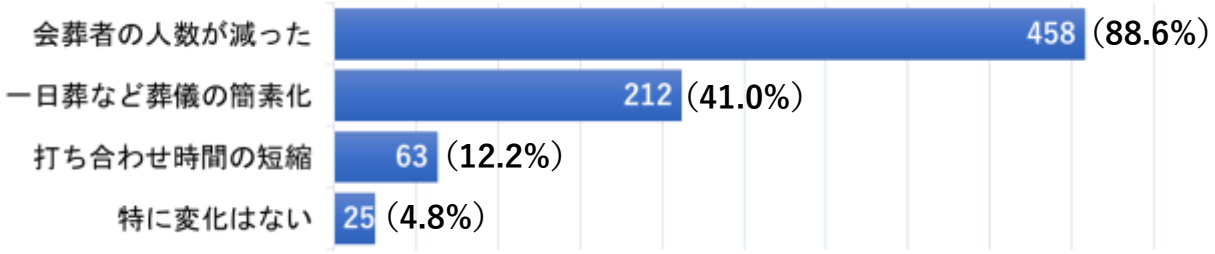
・年齢

20代	25
30代	115
40代	211
50代	118
60代	38
70代	10
80代以上	0
合計	517

・性別

男性	479
女性	36
その他	2
合計	517

（1）葬儀についてどのような変化がありますか。（複数回答可）



その他（自由記述）の主なもの

◇期間中に葬儀を行っていない（24 件）

◇湯茶提供・会食がなくなった（20 件）

◇少人数化、焼香の分散などの防密対策（15 件）

例）・読経と参列者の焼香の時間を分けるようになった。

・会葬者は式前に焼香だけして帰るようになった

◇簡素化の補足（12 件）

例）・火葬のみ（いわゆる炉前読経もなし）で葬儀を実施せず、忌明・納骨法要から行いたいという依頼があった

◇会葬者のマスク着用や消毒の徹底、間隔をあけるなどの対応が見られる（7 件）

◇火葬場や自治体による制限（4 件）

例）・市が一つの部屋の会葬者を 10 人以下にするよう通達している。

・火葬場の同行が 4 名までに制限されている。

◇遠距離移動自粛や渡航制限の影響（3 件）

例）・喪主が海外から帰ってこられないために後日葬。

（2）法事についてどのような変化がありますか。（複数回答可）

その他（自由記述）の主なもの

◇延期・中止の補足（6 件）

例）・施主はやりたいと思っていても、親戚や家族に高齢者（高リスク者）がおり、延期したいとの申し出が多いように感じる。

◇場所の変化（6 件）

例）・家ではなく、本堂で法事をすることが増えた。

・墓でやってほしいとのリクエスト。

◇無参列法要の実施（遠隔法要含む）（4 件）

例）・寺院に伺えないので、お経をあげておいてくださいという依頼が 2 件ほどあった。

・YouTube 法事、住職のみ本堂で法事。

◇自治体等の制限（2 件）

・仏教会で法事は家族だけと決め、会食は行わないとしました。

・州の規則で禁止（国外）。

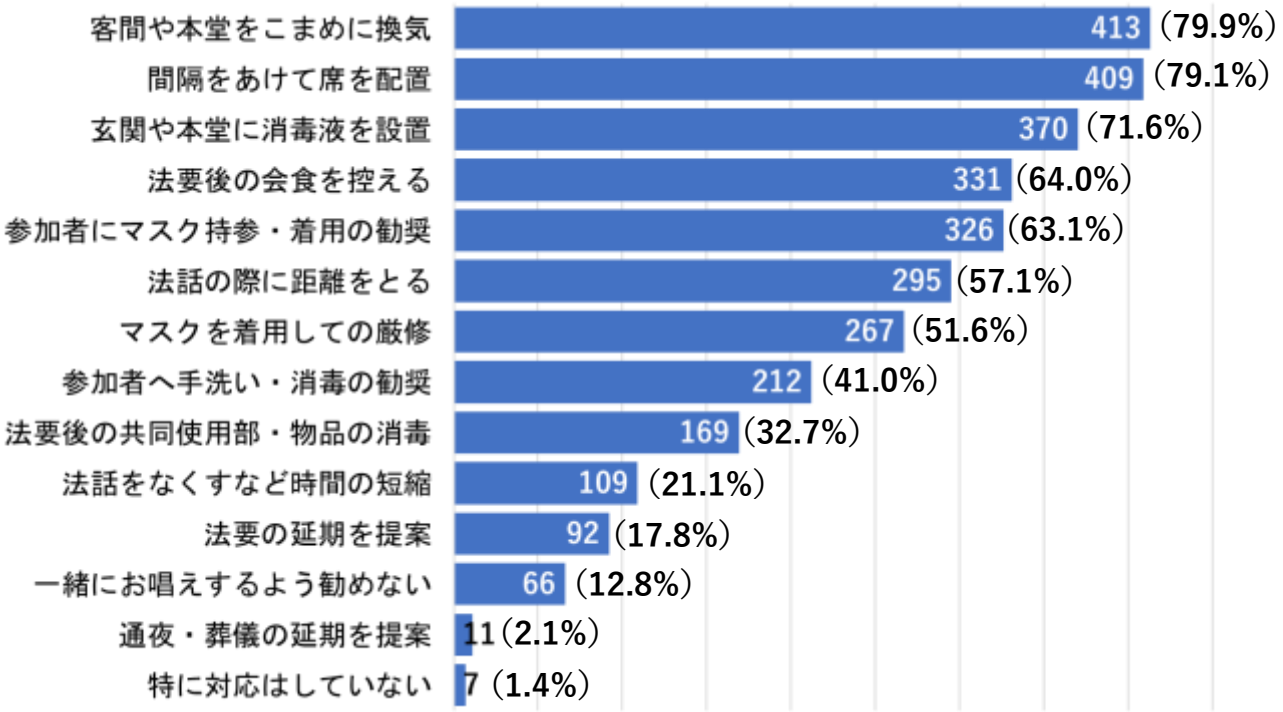
◇未分類

例）・本堂での除菌の方法や対策を尋ねられる。

・コロナで収入が減ったので、御布施を減額要求されている。

・塔婆の申し込み本数の減少。

（３）葬儀や法事の際に特別に取っている対応はありますか。（複数回答可）



その他（自由記述）の主なもの

◇マスク着用の補足（7 件）

例）読経はマスクを外しているが、法話はマスクを着用している。

◇オンライン法要の実施・提案（7 件）

例）・お寺でした法事を録画し、動画サイトに限定公開して見てもらう。

・希望者には Zoom による不参詣遠隔法要を行っている。

・オンラインでの実施、参列を提案している

◇防密のために少人数や寺院での開催をすすめる（5 件）

例）・参加者は家族だけと勧めている。

・自宅仏壇での年回忌法要は親族が集まり、三密になる可能性があるため、場所を本堂にて執り行うことを勧めている。

・過密になりやすいお仏壇での廻向は家人のみにてお参り頂いています。

◇無参列対応（3 件）

例）・年忌法要を寺で勤め（参列者なし）、動画撮影、DVD にしてお渡しした。

・塔婆回向を寺で行い、代行墓参して、写真を施主に送る。

◇消毒液設置の補足（2 件）

例）次亜塩素酸水を超音波加湿器で空間除菌をしている

◇未分類

例）・法要の待合にお寺備え付けのお茶セットを出していたが、ペットボトルのお茶に変更した。

・近距離で対面する場にはアクリル板を設けている。

・住職はじめ、寺院家族も、毎日検温。

・当面の間、訪問しての日々の法要は自粛する旨を寺側から周知した（希望者の法要は行っている）。

・お寺側、ご門徒さま共々に、感染拡大につながらないような対応を取るべく、新型コロナウイルスの具体的対策を書いたお手紙を、全ご門徒さまへ郵送し、対応しております。

（４）現在、以下の檀務・法務・定例行事をどのように行っていますか。

（5）（4）のいずれかの項目で「形を変えて行なっている」を選択した方にお尋ねします。どのように行っているか具体的に教えてください。

■月参り

◇訪問せずに、寺にて行う（13 件）

例）・月参りにお参りしないお宅の読経は本堂にて和尚一人で回向しています。

・お手紙や電話で意思疎通をとり、寺にて先祖参りした証しに紙塔婆等を送付もしくは檀家様宅の玄関先で渡すようにしている。ご高齢の方は、SNS を利用不可の方が多く、アナログで何かしら繋がるようにしています。

・非公開とし、寺の公式サイトや SNS で配信もしくは報告。

・家に行かず本堂で住職一人で檀家の月命日の方の回向。お布施は前もって寺に持ってきてもらう。

◇マスク着用・除菌等の徹底（13 件）

例）・マスクを着用したままおこなっている。

・木魚などを使った後は除菌用ティッシュでふき取るなどの措置を行っている。

・アルコールスプレー持参。

◇希望をきく（9 件）

例）月忌参りは檀家の選択とし、伺う場合は 3 密を避けること、マスク着用の読経にすることを案内した。3 分の 2 は中止となった。しかし寺側からメッセージを出すことで、安心感・信頼感は増したと感じる。

◇茶菓接待の辞退（6 件）

例）お経終了後のお茶菓子は極力遠慮しております。

◇時間短縮（4 件）

■定期的に行う行事（一部、毎年行うイベントとの重複有）

◇無参列での実施（29 件）

例）・法話と念仏の会を「中止」とはせず、寺院において住職が法要を勤め、毎回の参加者には自宅にて手を合わせていただくようご案内しました。

・例年、彼岸会などは積極的にお参りの案内をするが、今回、法要自体は実施したが、お参りの呼びかけはしなかった。

◇規模・時間の縮小、方法の変更（23 件）

例）・彼岸会永代経を、法話をなくして時間を短縮し、焼香のみでお引き取りいただくようにした。

・坐禅会は坐り方のプリントを配布してお宅にて一人坐る様に勧めています。

・写経は各自が自宅でできるように手紙を添えて求める人にお送りしています。

◇オンラインでの実施（20 件）

例）・坐禅会は Zoom を利用したオンラインでの開催をしています。

・法話を YouTube で動画配信をし、ハガキ通信に QR コードを添える。

◇マスク着用、間隔をあけるなどの感染対策（6 件）

例）お彼岸の念仏会については、住職・副住職のみでお勤めしますとのお知らせを出したが、どうしても参加したいと来られた方については、マスクを着用していただき、席の間隔をあけて座っていただいた。

◇未分類

例）月に一度子ども食堂を行っていたが、現在は協力者とともに子育て世代にお米などを届けたり、取りに来てもらう形を取っている。

■毎年行うイベント（一部、定期的に行う行事との重複有）

◇無参列での実施（7 件）

◇オンラインでの実施（6 件）

◇規模・時間の縮小（5 件）

例）花まつりでは人寄せはせず、花御堂を出してお参りしてもらうだけにした。

◇未分類

例）子ども会は時間枠を取り「本堂開放」という形をとり、出入り自由の場の提供という方法で行っている。

■その他（「形を変えて行なっている」をチェックしていないが、自由記述があるものを抜粋）

例）・月例、毎年恒例の行事は開催を見合わせていますが、毎日の勤行についてはオンラインで配信し、終了後に Zoom に切り替えて朝の会などを行っています。

・月参りはスマホを仏壇においてもらって、スタート時刻を決めてお寺で読経をし、それをそのまま檀家のお仏壇に流してもらう。あとその電話でお話をする。「電話月参り」といっています。しかしそれほど広がっていません。

・自動車又は徒歩か自転車の方のみ来寺を推奨、公共交通機関の利用者は自粛を推奨。

・コロナを配慮してのお断りはご遠慮なく、とアナウンスしている。

（6）これまでにお尋ねした以外で影響のあった行事はありますか。あれば、どのような影響か具体的に教えてください。(269 名から回答)

■法要・儀式の延期・中止（93 件）
◇花まつりの中止（13 件）　◇法話会の延期・中止（10 件）　◇彼岸法要の中止（9 件）
◇晋山式の延期（8 件）　◇開山忌・御忌・遠忌等の延期・中止（8 件）
◇施餓鬼法要の延期・中止（7 件）　◇永代経の延期・中止（6 件）　◇落慶式の延期（3 件）
◇大般若法会の中止（2 件）　◇五重相伝会の延期（2 件）
◇仏前結婚式の延期・中止（2 件）
■団体参拝の延期・中止（75 件）
■無参拝や縮小など形を変えて実施（60 件）
例）・施餓鬼会にて、当日納めていただく年会費は原則郵便振替にしていただき、近隣の方で当日来寺の方は外の受付・焼香をしてお帰りいただきました。
・お彼岸の法要参列を檀信徒自身の危機意識に合わせて強要しない旨、参加しない場合は塔婆の受け取りのみ後日来て頂く、もしくはこちらで後日お墓にたてておくことも可能である、という選択肢をお伝えしました。
・施餓鬼は寺の役員のみ参列で、塔婆は地区ごとに日にちを分けて、分散して取りにきてもらうように伝えた。
■寺院の役員会等の延期・中止（23 件）※その他、書面による役員会実施という回答が 2 件
■一般向け行事（子ども会等）の延期・中止（15 件）
■研修会（僧侶向け・檀信徒向け）の延期・中止（13 件）
■他寺院、教団等の行事の延期・中止（11 件）
■参拝者の減少・変化（9 件）
例）・御朱印のお参りが減った。
・境内墓地への参詣が、春の彼岸以降、あきらかに減少傾向にある。
■教室・習い事の中止（8 件）
例）境内の会館を地域コミュニティサークルなどに開放していたが、中止した
■拝観・御朱印等の縮小・中止（7 件）
例）・例年は放生池の魚に与える餌を無料で置いていますが、緊急事態宣言中は中止している。
・行政が外出自粛を呼びかける中、遠方からの参拝者が目立った（地域住民からウイルス拡大の懸念）→御朱印の休止、連休における観音堂閉鎖等の対応。
■収入の減少（7 件）
例）・法要や布教師法話は中止にするが……事前にお約束している関係上、法話の布教師に対する法礼はいつも通りお渡しする。法要を中止したら参詣者の御志納があがらないため……正直経済的にもキツイ。
・住職（布教使です）の主たる収入源であった他寺へ赴いてお説教をする場が 2 月中旬以降、ほぼ全滅している状況です。

・収入減により、毎年の本山護持の費用負担が捻出できない。この辺りを本部から費用負担の軽減等の指針を示して欲しい。

■その他

例）・近隣の子供たちのための集まりを全て中止にしています。その代わりに、困窮世帯や母子向けに無料食品配布を行うようになりました。

・役所の地域センターで開催していた子ども食堂が開けず、書院や境内での食糧配布に切り替えた。

・定例の研修会を開催して欲しいとの意見があった。大事なご縁の場であると思うので、開催方法を工夫して実施したいと考えている。

・親戚縁者が集まってする法事が縮小型になり、施主がとても残念がっていたのが印象的。

（7）檀家・門徒・信徒の方々からの新型コロナウイルスに関する相談を受けていますか。あれば、具体的に教えてください。（247 名から回答）

■法要に関する相談（193 件）

◇法要を延期・中止したい

例）・法事は命日を過ぎても大丈夫かとの問い合わせをいただきので、大丈夫ですよと答えています。

・法事をしたいけど、娘が名古屋だから呼べない。けれど参列して欲しいから延期をしたい。

・特定警戒都道府県に住んでいるので、法要（会葬）を見合わせたい。

◇法要をしてもよいのか？自粛すべきか？

例）・自宅に居ることが多い高齢者の門徒から、テレビのニュースやワイドショーで一日中新型コロナウイルス感染症のことばかり聞かされて不安になっている。このような状況で夫や親の年忌法要をやっても良いのだろうかと相談を受けた。

・今の時期、お寺に集まって年忌勤めをしても良いか。他の方はどうしているか。

◇法要の規模・場所等の変更について

例）・四十九日や月命日を人数を減らして行いたいとご連絡がありました。

・年忌法要を場所、人員、時間など、縮小変更して行いたいが、どの辺まで縮小すればいいのか、どのように接待すればいいのか、などの相談。

・コロナの影響が出る前から、施主が高齢のため自宅での法要を希望される方が多かったが、施主のご家族などから近距離・密室の不安があるなどの声もあり、そういった方には、なるべく寺に来ていただき法要を勤めている。

◇少人数で行いたい

例）・法事の執り行いをどのようにしたらよいか。高齢者が多いので親類の参列を断っても良いか。

・葬儀の参列者について、高齢者が罹患すると命にかかわるので若者たちで行いたいと相談を受け、了解しました。

◇集まる・集めるのが不安

例）・今の状況ではあるが、家族だけでも法事はやりたい。法事に子供を連れて行ってもいいか。遠方から親戚が来たいと言っているがどうしたらいいか。

・葬儀にて県外の孫の帰省を止めたい。

◇遠方のためにできない・行けない

例）・県外の親族がこちらに帰ってこれず、法事そのものができないという相談。

・高齢で一人が心配で娘の家（県外）の近くに引っ越した。法事を本堂でする予定であったが、居住地から出にくく延期せざるを得ない。なにかと世間の目が気になると。

◇無参列・住職に依頼

例）・一周忌を住職のみで行い録画して見られるようにしてほしいとの相談がありました。読経と法話を録画して家族が YouTube で見られるようにしました。

・施主自身が外出が怖いから住職にお願いしますなどがあった。

◇仏教としてどうか

例）・人数を減らすことや延期することは、仏教的に悪いことなのか。

・法要延期により亡き方が悲しまれないか不安。

◇参詣したい

例）・講話日や行事が中止になったが、参詣はできるのか。

・自分の住んでいる地域から、寺に出かけても良いか相談された。

◇自宅に来てほしくない

例）・少数ですが、私が檀家さんのご自宅に伺うのはウイルスまで連れて来そうで来てもらいたくない、とご連絡がありました。

・医療従事者が家族におられるお宅など、人と接する機会を減らせと職場から通達があり、月忌参りを休ませてほしいとの連絡が数軒あった。

◇新型コロナウイルスで亡くなった場合の相談

例）・コロナウイルス感染によって身内を亡くされた親族から、隔離後、初めて会ったのがお骨になった姿なので、どのように受け止めて良いか分からない。

・親がコロナウイルスで亡くなったが、家族が濃厚接触者で自宅待機なので、遺骨を受け取りにいけない。また葬儀もできないので、お寺で遺骨を預かってほしい。

・自分自身がコロナで亡くなった場合の葬儀の仕方に関する相談。

■生活の不安やストレス（22 件）

例）・心が落ち着かない毎日への悩み相談。

・精神的な不安を訴える方が多くなった。月参りなどは思ったより減っておらず、待っていてくださる方が多い。それを受けてお話の時間を多くとるようにしている。

・自粛要請を指定されている業種なので給料が無いままの生活を強いられている。先が見えずに不安。

・一人暮らしの方は、人と話す機会が少なくなって気が滅入るが、不安なので外出もできない、と。

・施設に入っている親に面会できない不安を聞きます。

・自閉症スペクトラムの方、作業所も閉鎖して、部屋にばかりいて、将来を考えると不安である。

・子どもたちが家に閉じ込められてストレスを抱えているのがつらい。

・経済的な心配、飲食店の方、もう政府の救済処置も間に合わない。自暴自棄になられる方もおられます。

・家族と、顔を突き合わせなければならない苦痛。あまり仲が良くない家族で、仕事があれば、顔を合わせなくて無難に過ごせていたのに、今の現状で、余計仲が悪くなる。

・ご老人は、このコロナ自粛で体力と精神力が落ちて、認知症が進んでしまっています。月参りや法事で、外部の人に合わないと、認知症が進んでしまっているという感じがします。また、そうなっても、なかなか医療につながることも憚られると言っていました。

■その他

例）・コロナの影響により家族葬が増え、お世話になった方へお悔やみにいけない寂しさ。

・遠方から法要に参加することができないため、大切な人とのお別れができなくてつらいという相談があった。

（8）新型コロナウイルスの影響を受けて、今後の法務にどのような変化があるか、気になっていることや心配なことを教えてください。（373 名から回答）

※分類に際して、明確に分かちがたいものは、調査者の判断によって分類した。また、一文の中に複数の項目についての記載があるものは、各項目にカウントしている。
例）「法要の簡素化が進み、家族すら集まらなくなると、次世代に継承されなくなり、寺院の護持も難しくなっていくだろう」→「葬儀・法要の簡略化」、「世代間不継承」、「寺院経営の先行き」にそれぞれカウント。

■葬儀・法要の簡略化（118 件）

例）・葬儀への参列者が減少して簡略化が進み、家族葬賛成派の台頭、簡略正当化論者の台頭。そして過度な簡略化によって正式な意義を体しなくなり、更なる簡略を招くという負の連鎖を恐れています。
・葬儀、法事の小規模化が一気に進みかねない。葬儀、法事を通して、多くの人々に布教する機会があったのだが……。
・行事を延期する、またオンライン化を進めた際に、その措置を一時的なものと受け取らずに「今後もそれで良い」となってしまい、葬儀などの簡素化が進んでしまうのではないかと考えています。
・葬儀の仕方が変わって行くのではないのか。例えば 1 日葬が主になるとか、家族だけでの葬儀が増えるとか、本来の葬儀のありかたが簡略化され、葬儀の重要性が無視されてしまう。
・お寺に集まって法要することが少なくなり、塔婆回向で済ませてしまう檀家さんが増えていくのでは。
・法要や葬儀を簡素化あるいは開催しないことを、ある意味新型コロナウイルスが後押ししてしまった。一度楽なことを憶えると元の面倒なやり方には戻らないかもしれないという不安。
・現在、葬儀が家族葬、直葬で行われたり、法事もが家族だけという規模の小さい形で勤めていることが多い。そうすると今後新型コロナウイルス感染が収束したときに、元の形で勤めるのがなくなるのではないか心配である。これまで大事にしてきた社会的繋がりが断ち切られてしまうのではないか。

■法要が途絶える、法要文化の衰退（58 件）

例）・法要をしないお宅が増えることは懸念しています。
・法事が延期中止になることで、今後、法事をしなくてもいいと思ってしまうのではないか。
・延期ではなく中止になってしまうと思われる。今後はやらなくてもいい方向に加速する。
・法事は不要不急との概念が定着するのが心配である。
・年忌法要を行わないのが当たり前になってしまうのではないか。
・法事全般に対する乖離に拍車がかかるのではないか。
・会食がないことで他の人と故人を偲ぶことを共有できないことにより今まで自然とできていたグリーフケアができないことを危惧しています。

・法事の後の御斎の習慣が一気になくなってしまうのではないでしょうか。思い出を語る大切な時間のひとつなので気になっています。

■寺院の行事縮小・衰退（51 件）

例）・法話会など細々と続いていた行事はこれで終わる可能性をひしひしと感じている。新しいアプローチも考慮しているが、現在苦しんでいる方々が高齢のためそれも難しい。

・行事が途絶える事が心配であるので、とにかく形だけでも行う事が大事である。一度やめてしまうと、元に戻らなくなる気がする。

・墓のない信徒寺のため、行事の中止がご縁の切れ目にならないか不安がある。

・東北震災後に施餓鬼会の参詣客が減りその後戻らなかったので、今回も更に減る事を心配している。

・寺の行事の中心は高齢者がほとんどのため、再開すべきか、再開したとしてお参りがあるか不安。

■世代間不継承、寺離れ、意識の低下（47 件）

例）・県を跨いでの移動に当面リスクが伴うため、壮年、老年層数人で簡略的に行う流れが定着するのではないかと思います。そうすると、今以上に次の世代に法事文化が引き継がれず、いずれは仏事の消滅へと向かうと思われます。

・毎月お顔合わせしていた檀信徒様との距離が開かないかが心配。

・ただでさえ将来が不安だが、コロナウイルスの影響で、ご門徒との関わりがさらに希薄になり、お寺の存在意義、教えが伝わらなくなるという危機感がある。

■月参りの減少（33 件）

例）・月参りは徐々になくなってきている勤め事の一つ。今回の影響で更に勤められない家庭が増えるだろう。

・三月以来、月参りが二割ほど減った。その半分は当分の間休みとの連絡。元々減少傾向にあったが、そのペースが早まるのではないかと危惧している。

・実際、月参りは減少しているが、コロナ禍に合わせた断りもあると思うので、これまでの教化が行き届いていなかったという反省もあります。

・月参りを休んだことをきっかけに「高齢のため今後も月参りはお休みします。お盆だけお参りしてください」となった。

・緊急事態宣言期間が終わっても、その間に月命日のお参りを休んでいた檀家さんが戻って来るかどうかわからない。

■寺院経営の先行き（29 件）

例）・法事の規模は小さくなっているが、数はあまり減ってない。しかし、檀家各家庭の収入が減ってくれば、法事の数も布施も減るであろう。行事への申し込みや参加も減る。結果、中長

期的に寺院の収入減となる。
・お盆もこのまま自粛が続くと、収入面で厳しい。
・新型コロナウイルスの蔓延により、年中行事が中止され、そのための収入の低下が心配。
・寺院の経済的基盤の布施収入が減少して寺院の護持運営に支障をきたす。

■関係性や儀礼の変化・見直しの機会（27 件）

例）・門徒さんとの関係性の変化が起こらないか心配。またこの期間でどのようにコミュニケーションをとるかで、今後がかわってくるものと思われる。
・あらゆる業種に影響があると思われるので、お寺（宗教法人）が泣き言を言ってはいけない、ましてや不安な顔を見せてはいけないと鼓舞している。そのために、平生から「心の距離」を密にする活動やお話をしてきたつもりであり、今回はその「答え合わせ」というか回答をいただいたように思う。
・悲観するのではなく、もっと丁寧に檀信徒と接すること、法話、寺報、ホームページなどで寺の行事や活動を説明していく必要がある。
・コロナはいずれ終息するので、暫定的に形を変えるところと、この際改めるところを見極めたく思います。
・行事、法要の簡素化などにより、寺院の運営、法務の持ち方も工夫が求められると感じる。
・これまで、信仰ではなく、習慣として行われてきた法要を見直す良い機会だと感じています。現在の檀信徒たちが、法要やお寺のことをどのように考えているのかを明確にすることで、これからの課題もハッキリすると考えています。

■今後の対応を思案中（25 件）

例）・夏の施餓鬼は新盆供養も兼ね、大事な行事だが、今までのやり方だと会食を伴い、出席者も多く 3 密は避けられない。8 月の感染状況が読めないので、どうしたものだろうと考えあぐねている。
・毎年 5 月に行っている施餓鬼会は、檀信徒の参列は中止にしたが、お盆の棚経は自宅に伺っていいものか。

■オンライン化への是非（13 件）

例）・オンライン法事の準備をしなければならないかどうか。
・そも、オンラインではそこに繋がれる人が限られる面がある。PC・スマホの扱いに慣れない高齢者など。そうした方を切り捨てる側面もあると懸念する。
・ネット配信等がマスコミで取り上げられて、其れがさも流行の最先端の様な論調になり若者の意識がそれに流される事に危機感を覚えております。あくまでも非常事態での対応だという事をしっかりと理解いただき、アフターコロナに対応出来る体制を宗門全体で構築しなければならないと思っております。

■ウイルス対策（8 件）

例）・ウイルス飛散防止の観点から、称名念仏はどのように教示すれば良いのか？

・お勤め（読経）の際はマスクを外しているが、面と向かう法話の時はマスクを付けるようにしている。しかし、お茶を飲みながら話す時はマスクを外さざるを得ず、どこまでマスク着用すべきか、相手がどこまで気にするかの話になるので、今後も対応に苦慮すると思う。

■その他

例）・中断してなくなってしまうような行事なら、そういう程度の行事しか提供できていなかった、ということだと思っています。

・現在、刑務所の教誨も中止されている。一番会いたい彼らに会えないのは辛い。

・佛事を自主的に取り止める寺院がある事を危惧している。そういった行動は、寺院自ら「佛事は不要不急のもの」と言っているのと同じ。参拝が無くてもすべきであり、法事中止の要望がある場合は応じるべきだが、自ずから言うものではない。

・葬儀に行かずに、葬儀社の契約している僧侶に依頼してくれと対応している者もいるようだ。コロナの影響で簡略化されていることが当たり前とならないよう、宗教界でしっかりアフターコロナ対策が必要。

・法務についての心配は特にないが、鬱や自殺などの相談が増加しつつあり、危惧している。（寺院の所在する住所地より都会の信者さんに多い傾向。事態の深刻度合いや他人との関わりの希薄さが関わっていると思われる）

・現在の自粛、ネット配信等が通常化すれば、ご先祖様や個人を弔う心が希薄になると感じます。大手の葬儀社主導は（家族葬・直葬儀・散骨・樹木葬等）危険です。放置すれば葬儀社に使われる時代になってくるかと……。

・情報の伝達システム。当方では地域の世話方によって、配り物や年会費を集めている方々が全体の 4 割ほど。もともと状況が難しくなっていたところに、対面を避けるコロナウイルス感染防止により問題点をつきつけられた感じです。

（9）新型コロナウイルスの影響を受けて、新たにはじめたことがあれば教えてください。（244 名から回答）

■オンライン対応（検討中含む）（112 件）

例）・寺の Facebook 開設と寺報よりも細かな情報の発信。
・葬儀や法事は、希望があれば、Zoom を使って、遠隔配信しています。
・Facebook や Twitter などで法話の発信を始めた。
・SNS を利用してのお勤め作法動画配信、お寺の様子の配信など。高齢の方多いこともあるためか反応は薄い。
・遠方のお檀家さん向けに、法事の様子を動画撮影してのメール送付をはじめた。
・僧侶同士のオンライン会議やオンライン坐禅会。
・遠方からの親族へスマートフォンでお墓参りを共有。
・インターネット回線を持たない上に寺に参れない高齢門徒のためタブレットを複数台購入。コロナ期間中はそれを使って法座や会合を開きます。
・法事の動画配信（Zoom、LINE、YouTube からの選択）の案内を出した。
・寺の公式 YouTube チャンネルを開設。
・Zoom での朝の会、子供向けの朝の会、住職の部屋（Zoom 個人 ID を開放してよろず相談を受ける時間）を行っています。
・法要の動画を撮影したが、公開の方法を考えている。あくまでも寺での法要、行事への参加を勧奨する手段として位置づけ、限定公開やライブ配信のみなど工夫をする必要がある。
・お月参りは基本的には見合わせているが、希望があった場合は、動画で一緒にお勤めをしている。
・オンライン上のお寺、オンライン寺院を始めました。具体的には、法話や仏教講座の動画や文章などを配信しています。

■無参拝法要・代理参拝（31 件）

例）・法事や墓参代行の様子を写真に撮り、ハガキで報告するようになった。
・遠方の檀家さんの法事を頼まれ、法要中の写真や法話を書面で送付した。
・役員を中心に代表参拝とした 4 月勤修の報恩講法要の勤行と法話を撮影し記録した。今後、門信徒へ DVD か法話記録冊子として配布を検討している。
・来寺にて年忌供養を行う予定だった方にお勤めを録画して DVD を渡した。
・遠方の方や高齢の施主の方の希望で、寺にて住職のみの法事を行なっています。法事前にお電話し、ご家族には仏壇前でお念仏してもらうようにお伝えしています。法要終了後、法要の写真とお手紙をお送りしてご報告しています。
・ご自宅での御法事を中止されたが、寺で御法事を勤めて欲しいとご希望された御門徒には、お供えの品を持って行くようにした。
・法事を住職のみでお願いされた時に、寺庭に法要中の写真や塔婆の写真、墓参の写真を撮っ

てもらい後日郵送した。

・依頼があった檀信徒のお墓参り（掃除、献花、回向等）を行っている。

・過去帳を預かっての月参り本堂回向の提案。

・月参りのお休み通知を受けた場合は寺での読経を通知。

・門徒から『お互いの為に、お寺さんには家には来て欲しくないけど(コロナ)…お参りはして欲しい。本堂で住職がお参りしておいて欲しい。』との依頼が数件ある。お布施を頂けてはいないが…一応受け入れています。

■寺報・郵送物（26 件）

例）・孤独感や無聊の慰めとなればと思い、写真を添えた法話と粗品を定期的に郵送し始めた。自粛解除まで継続予定。

・新たにではないが、お寺のニュース（寺報 A4.p12）を年 3 回からもう少し増やそうと取り組んでいるところ。

・中止した法要のご法話のかわりに、こまめに短い法話を書いて御門徒方にお送りしている。法事をお寺の本堂で私が、ご自宅の仏間でご当家がそれぞれに同じ時間にお参り。ご当家には次第や法話を事前に紙でお送りする。

・法話会の内容を寺報に同封。

・毎月の法話会ができなくなったので法話会に代えて書面での法話会「お手紙法話」を発行することにしました。

・啓発のポスターを作成し配布した。

・檀徒には郵送で見舞いの手紙を送った。

・お寺として、葬儀・法事の方針を門徒の方に文書で伝えた。

・定期的に行っているものではありませんが、花まつりの塗り絵を全檀家に郵送し、返送いただいた塗り絵は堂内に掲示してブログにて報告する予定。

・隔月刊発行の「寺報」にコロナ禍の中での生き方をテーマに掲載している。

■ウイルス対策（16 件）

例）・普段の法務は、自分が既に感染者と仮定してお参り先にウイルスを残さないよう、マスク着用のままお勤め、敷物を敷いて急なくしゃみでもご家庭の床に散らさないようにする、手指殺菌用アルコールにて触ったところの除菌、お勤め後のアルコールスプレー散布をやっています。大袈裟だとは思うのですが、貴方を感染させたくないのでと正直に言えば納得してくれて、話のネタになってます。

・マスク着用　距離をとっての説教のためのフェイスシールドやポータブルマイクの使用。

・寺庭が布製マスクやアルコール消毒液を作り、その作り方を広めている。

・マスク不足やマスクの高騰で困っている檀信徒のためマスクを手作りして送ったり、お墓参りに来られた方に差し上げたりしている。

・手洗い 20 秒、御十念 20 秒で、御十念しながら石鹸で手洗いのススメ。

■写経（12 件）

例）・現在、月 2 回お寺で写経の会を開催している。現在休止中だが、遠方の檀信徒さんから、写経をやってみたいとお申し出があり、教材をお送りした。

・写経をホームページや Facebook にてご希望の方に無料で配布している。

・ご自宅でお写経を！と、全件のお檀家さんに郵送し、お寺にお写経ポストを作り入れて頂くか、郵送で返信して頂き、毎日ご回向している。

・毎月の写経会を中止にした分、今回、写経メンバーではない人に対しても「寺報」で「自宅写経」の案内をだしている。

■御札・御守り配布、ウイルス退散祈願（9 件）

例）・角大師の護符を作り檀家に配布した。

・疫病回向、蓮華配布

・全檀信徒に手紙と御守を送付。

・疫病除けの祈祷及びお札の配布。

・コロナ収束を願い毎日観音懺法を和尚一人で厳修

■掲示板（8 件）

例）・お寺の掲示板を毎日更新している。

・掲示板の法語を月 1 回程度で更新していたが、月に 2 回にした。

■電話（4 件）

例）・すべての信徒に電話連絡して、安否伺い、必要とあればソーシャルディスタンスを取りながら訪問しました。これにより信徒との新たな関係の結び直しができました。

・電話月参りをはじめた。

■境内整備（4 件）

例）・お寺にお散歩にこられる方の癒しのために花を植えました。

・お参りに来れない方のために境内墓地の掃除をいつも以上に行うようにしている。

■子供支援（4 件）

例）・語り場に来ていた母親から学校が休校になり、発達障害を持った子供達が不安になったり、生活困窮家庭がさらに厳しい状態になっているとの話を聞いたので、お彼岸後に組内のお寺様のご協力もいただき、仏様のおすそ分けとして、お供えのお菓子などを集めて、約 100 セットの菓子詰め合わせを作り、子供達に配布した。

・お供え物のお米を母子家庭などに配った。

・地域の子どもたちの小学校休校が続いており、学びや生活が崩れています。小学校が再開してもスムーズに移行できるよう、子どもたちの出口戦略として「寺子屋自習室」をはじめま

した。小学校と同じ時間帯でお寺に来て、正午には給食。お寺の座敷を活用して、一人一部屋を独占し、ZOOM でネットワークをつなぎ、ホームルームから、4 限（30 分×4 コマ）、給食まで動画で共有します。住職は本堂前の外縁を職員室として必要に応じて各部屋のお世話をします。当県の小学校が再開するまで、週 3 日に限って運営してます。

・主に小学生のお子さんを中心に、児童の一時受け入れ「臨時の寺子屋」を行った。（3 月前半：朝～夕、保育士常駐、無料）現在は、保護者同伴での居場所（サードプレイス）作りのため、本堂を開放中。

■鐘つき（3 件）

例）・医療従事者へのエールや、病の早期終息を願い、「平和の鐘」を金曜日に撞いています。

・全日仏青の提唱した GW 期間中の『祈りの鐘』を実行し、その様子を動画配信した。期間終了後も鐘突きを続けている。

■法要のオンライン化への疑義（3 件）

例）・空いた時間に短い法話の動画配信をはじめた。法要などをライブ中継する意義については疑問。

・動画配信は個人的に微妙です。なにかと理由をつけて、行かなくていいや、観た⁉様にしておけばいいやと、なる気がします。その場の厳かな雰囲気を感じていただくのも布教のあり方かと思います。

■短時間化（2 件）

例）・法話をプリントアウトして配布し、通夜や初七日の時間短縮を図った。（配布前に喪主より相談を受け、密になる時間を減らすための取り組みと説明の上で）

■場所変更（2 件）

例）・墓前での法要を始めた。

■その他

例）・半屋外式のコミュニティスペースを作っている。

・コロナだからといって、変なことはしない。いつもの通りやるのが大事だと思っている。

・毎月のお参りの際に買い物代行や生活上の困りごと等のお手伝いをする。

・お寺の維持金の納入方法を、世話方による集金から、郵便振り込みに変更した。

・梅花講員さんに対し梅花練習が出来る用練習用 CD-R 配布しました。

（１０）現在まだはじめていないが、今後取りうる対応があれば教えてください。
（250 名から回答）

※本項では、回答数の多い順ではなく、まず「法要・法話」「盂蘭盆会・棚経」「施餓鬼・施食法要」の順にそれぞれを分類したものを記している。（盂蘭盆会、施餓鬼以外の法要は、数が少ないためすべて「法要・法話」に含めた）

■法要・法話×オンライン（43 件）

例）・当山の法事を Zoom で配信。落慶法要のネット配信を検討中。
・希望者への動画配信による法要スタイルの導入を検討中。
・県外の檀家さんへ、オンライン法事の開催を検討している。
・法事など来られない人がいたら、ビデオ通話などでつないで一緒におまいりしましょう、と次のお便りに載せる予定です。
・オンライン聞法会（法話会・座談会）を検討中。

■法要・法話×無参拝・代理参拝（9 件）

例）・寺へ来たいけれど来られない方へ、代参（本人の大切にされているものをお預かりしお札をつけて返す）の提案。
・墓参りをしているうちに本堂にて回向して回向用紙を持って帰ってもらう予定です。
・気持ちが離れる不安はあるが、時代に合わせて墓参代行も検討している。

■法要・法話×分散・少人数化（9 件）

例）・人数が多い法要では、最小限の方に本堂に上がってもらい他の方は、本堂前にて焼香してもらおうと考えている。
・法座・法要を複数回に分けて、参拝者を分散させる（昼の部・夜の部など）

■法要・法話×場所変更（7 件）

例）・家での法要を出来る限り、お寺で勤める。（3 蜜の回避のため）
・本堂でのお参りや墓前でのお参りなど、ご自宅以外での儀式。
・より安全に供養できる「青空法要」や、「故人へのメッセージを境内に掲げる」といった直接「場の力」を感じられるような祈りの方法を模索していきたい。
・棚経形式で訪問法要の提案。

■法要・法話×その他（8 件）

例）・報恩講でのお斎を持ち帰りのお弁当に変更。
・葬儀回送者対象に、告別式を夏場、合同で行う予定。

■盂蘭盆会・棚経×オンライン（7 件）

例）・お盆勤めで、スマートフォンでのお参りと言う選択枝を増やす。
・合同の新盆法要を YouTube でのライブ配信に変更し、申込者には限定配信の url を送信する対応を考え中。
・遠方のお檀家さんは電話、テレビ電話。

■盂蘭盆会・棚経×無参拝・代理参拝（5 件）

例）・お盆の棚経は参列者なしでお寺で供養させて頂く。
・お盆の棚経は例年通りの形で行うか、あるいはお位牌を預かるなどして対応すべきか思案中です。
・今夏のお盆の法要は、山内僧侶のみで行い、塔婆を感染防止に配慮して屋外で手渡そうと考えている。

■盂蘭盆会・棚経×分散・少人数化（10 件）

例）・お盆行事で新盆、二年盆で参列される方は代表者のみ、ほかの檀家信者さんは極力ご遠慮してもらい、法要後に各自がお参りする形式。
・お寺での初盆合同法要を時差別に家族をお招きして行う予定です。
・棚経については、新盆家のみとするか、従来通り檀家宅に伺うか検討している。
・お盆法要は複数日にわたって、映像機器を使って本堂の様子を中継して会場を分けつつ行うことになると思います。
・例年 20 家族くらいが集まる初盆法会を 2 部制にし、1 家族 5 名までと制限しての開催を予定しています。

■盂蘭盆会・棚経×場所変更（32 件）

例）・棚経をやめ寺での供養法会に変更。感染拡大の状況如何ではそれも無観客に変更。
・今年は迎盆供養会を本堂前の焼香のみで行うなど、本堂内に檀家を入れない形で行う。
・盆の棚経は檀信徒の希望に応じて、①家前で行う、②行わない、③いつも通り仏壇で行う、といった選択肢がとれることをお伝えする。
・お盆の棚経の希望をとり、本堂や墓前での読経を検討。
・将来的には元にもどすが、今年のみ棚経を墓前で行う事を検討している。
・盆の棚経を玄関先での読経に変更することを検討している。
・基本全檀家回るが、家に上がらず、玄関前から勤めたいと考えている。これからもそうしたいと思っている。
・棚経を托鉢式で、各家の玄関で勤めるか検討中。お盆墓経こそ、元々、地元の行事になっているので、密になるのが心配だ。
・田舎なので、今年だけ棚経を縁側からお勤めさせていただく。
・棚経では家の縁側に新盆の位牌を安置してもらい、そこで読経をしようかと考えている。

■盂蘭盆会・棚経×その他・実施の有無など検討中（29 件）

例）・棚経は、ご希望の方のみの対応にする。ハガキで確認して、出来るのなら辞退いただく方向です。

・お盆の棚経は、例年通り行う予定であるが、拒否される可能性はあると考えるので、パンフレットなどの配布物で、意義を説明していきたいと考えている。

・棚経は坊さんはじめ、訪問家も全員マスク着用をしてもらいます。

■施餓鬼・施食法要×オンライン（5 件）

例）・御施餓鬼会のネット配信を検討中。

■施餓鬼・施食法要×無参拝・代理参拝（3 件）

例）・施餓鬼は組寺寺院不在で行い、檀信徒も法要に参加しないでもらう。塔婆は後ほど取りに来て頂くか山内で建てる予定です。

■施餓鬼・施食法要×分散・少人数化（8 件）

例）・施餓鬼は初盆の方だけ、お参りして頂こうかと考えている。

・8 月におこなっている施餓鬼について、法要の座数を増やして分散させ、なるべく密の状態をつくらないようにすることを検討中。

・盆施餓鬼は 7 人の僧侶でお勤めするが、感染リスクを減らすために、今年は 3 人だけとする。

■施餓鬼・施食法要×場所変更・その他（3 件）

例）・施餓鬼法要の参列を、天候次第で本堂の外にしていただく案。

・中止を検討中。

■オンライン、インターネットの活用（既出法要を除く）（34 件）

例）・お寺からの情報発信用の Web ページを持っていなかったが、必要性を強く感じている。

・Web コンテンツを増やし、檀家や地域と繋がる手段を増やす。

・メールや SNS、オンラインでの繋がりも強化していくこと。

・地域の交流が断たれているので、お寺企画の地域交流会。（Zoom 利用）

・オンラインとリアルの融合法要、寺報の電子化、檀信徒の電子情報取得、動画のアーカイブ。

・ホームページ上にお経の音声データを上げる。

・インターネットを使っての役員会や行事の配信など。

・遠方にいても意識のある僧侶同士でオンラインでディスカッションして、問題の共有と乗り越え方の模索をしていきたい。また、勉強会などへと繋げていきたい。（近くの和尚だけだと意識のある方が集まらない）

■アナログ対応の充実（14 件）

例）・高齢の檀信徒に対し、電話又は手紙で繋がりを絶やさないようにする。

・時候の挨拶など行事の案内以外でも、手紙などで檀信徒との繋がりを意識することは考えている。

・檀信徒さんには寺報や動画説教などで寺の思いや状況は送信しているが、一方的になる。「交信」が途絶えたので電話で交信する機会を増やしたい。孤立しそうな独り住まいや、病気がちの家族がおられる檀信徒さんと電話で話す機会を増やしたい。

・法事が少なくなり、法話を行う機会が少なくなるため、案内を送付する際に、簡単な法話を添えて案内すること検討している。

■布施・会費等（5 件）

例）・管理費を振り込みなどで納めてもらうようにする予定。

・無参拝法要での支払いを電子マネー、ネット上でできるように。

・お布施の金額を下げる。

■写経（3 件）

例）・希望者に写経セットの配布事業を始める予定です。

■その他

例）・思い切って廃寺にするか？

・1 年で一番人が密集する三が日は、法要後振る合っているお菓子やお茶を持ち帰りにするか、無くすかするかもしれない。

・寺院の BCP（事業継続計画）の策定の必要性を感じている。

・あいまいな喪失を経験した多くの人たちが、大切な人とのお別れをどのようにとらえていけるか、場づくりがお寺でできれば。

・コロナ後の人間と社会がまだどのように変化するかが見えてこないので、今は対外的な方向への無駄な動きはせずに力を温存して、自坊並びに僧分の内向きの力を蓄えるところであると認識しております。

・これまでの「死者」対応の業務も行うが、これはあくまでも一つの側面として位置づけないと、運営リスクが高いということが、コロナショックではっきりしたと考えています。「死者」対応のみならず、「生者」対応を考えていきたいと思っています。そしてこれは、あらゆるサービス業にはない、または手薄な「すきま」をいつも狙って、しかも方向が異なる複数のラインを準備したいと思っている。

・棚経なども、檀信徒に自宅の仏壇前に座っていただき、対話をしながら、一緒に進めていくことで、お参りを僧侶だけがするものではなく、自分たち信徒が供養を積むためにも大切なものであると認識していただけるように勤めるつもりです。また、あわせて困りごとや心配事をお聴かせいただける直接の関係性を結んでいこうと考えています。

（１１）あなたが現在までに取り組んでいることについてお尋ねします。新型コロナウイルスに関して、檀家・門徒・信徒を問わず、人々にすでに伝えていることはありますか。あれば、どのような方法でどのようなことを伝えているか教えてください。(316 名から回答)

■方法・媒体の分類（複数記載可、記載のあるもののみ）

紙媒体	121	
①寺報	52	
②郵便物	20	
③掲示板	26	
④その他	23	（手紙・通信文（郵送の記載なし）10・ポスター4・チラシ 3・本・雑誌 3・写経用紙配布 1・塗り絵配布 1・FAX1）
インターネット	75	
⑤HP・ブログ	18	（ホームページ 13・ブログ 5）
⑥メール	5	
⑦SNS	36	（Facebok10・Instagram4・LINE3・Twitter2・WhatsApp1・mixi1・SNS（詳細なし）15）
⑧その他	16	（YouTube6・Zoom3・ほか 7（オンライン座禅会 2・ネット法話 1・ウェブマガジン 1・Web のみ（詳細なし）3）
口頭	55	
⑨法事・法話	33	
⑩月参り	6	
⑪その他	16	（口頭（含お参り時 3）雑談対話 9・電話 6・仏教会 1）
⑫その他	5	（供物・お札・御朱印・絵像・依頼記事各 1）

■寺院の対応（方針や事務連絡等）

例）・寺報で、法事や葬儀を執り行う際の基本的な方針を示した。また、様々な困りごとの電話相談を受けることを周知した。

・お手紙で寺院としての今後の方向性を示し、安心していただく部分と危機感をしっかり持ってもらう部分をお伝えしている。

・寺報にて COVID-19 で亡くなった際、ご遺体がどのような扱いとなるのか。その中で寺としてどのように対応するのか。世間が自粛の中でどう心理的に変化しているのか、日常を持つことの大切さなど。

・寺報で、永代経なども参拝者がなくてもきちんと法要が勤まったことを伝えた（参拝中止なだけで、寺族でお勤め）感染防止をしつつ、自宅が密になるならばお寺の本堂で間隔広くお勤めできること等を提案。

・今、休止している行事も、必ず再開することを、お参りしながら伝えている。
・まだ、3 月は当県は、そこまで感染が広がっていなかったが、春彼岸会の時は、寺院側で窓を開けるや席を離すなどの対策は一応しているが、ご自身で心配な方はお参りは自粛していただいて各自家でお勤め下さいと、いつもの連絡網で電話で回した。
・檀信徒さんへのお見舞いの手紙を、甘茶を同封して送った（四月だったので）。お寺はいつでもお参りを待っているということを、こうした状況下でも、様々な形で手を合わせることは続けていきたいと思っているので、ぜひ相談して欲しいとお伝えした。また、お檀家さんとお会いした際には、皆のご先祖さまや、うちのお寺の歴代住職も、たくさんの苦難（戦争やコレラなど）を乗り越えて、今に繋がっている。だから今回も必ず乗り越えられるとお話している。
・4 月の報恩講法要の開催を前に、3 月末に法要中止・延期または開催するならどのように出来るのかについて打ち合わせの役員会を持った。その中で門徒総代 OB の顧問より、「今、お寺が法要を中止したら、門徒も年忌法要や在家報恩講を安易に中止・延期してもいいのだと思うことになる恐れがある。だから、ここは住職に踏みとどまってもらいたい」との意見をいただき、細心の注意と万全の態勢を整えて開催することとなった。そのための法要案内を県内および市内の感染状況に応じて 2 度にわたり門徒総代に門徒全戸に配布してもらった。あわせて、本アンケートの質問(3)の各項目と同様の対応に則して、家庭での年忌法要および在家報恩講勤修に際しての住職からのガイドライン(指針)として門徒全戸に配布した。

■家での実践、ともに実践のすすめ

例）・世界各国の仏教者・宗教者が連帯して取り組んでいることを SNS などオンラインツールを通じて伝えている。目に見えない不安に対応するためのターラ菩薩マントラを、Zoom の相互方向機能で一緒に唱えている。
・御題目を唱えて他人の抜苦与楽を祈ることが、自分の心を安心させ、不安を取り去ることと常々伝えているので、コロナ禍用の具体的な祈りの言葉を伝え、寺院総出で 17 日間にわたって皆で祈りました。お線香 1 本を 40 分と数え、各家庭で御題目を唱えることを推奨しました。集計したところ加行した人は 666 名、2 万本分の御題目を唱えたことが、大きな連帯感と達成感を味わうことになりました。ちなみに最終日の 5 月 3 日は 3 月末以来初めて、当地での新規感染者がゼロになったことも感慨深かったです。
・お参りに来る方には祈ることの大切さを伝え、特に地元の方には先祖が寺院とともに伝えてきた、仏像や板碑石仏などの建立による功徳で困難を乗り越えてきたはずで、身近な神仏に手を合わせることの大切さを改めて伝えている。
・手を合わせることで、心を落ち着かせ、心にゆとりを持ちましょう。すぐそばにある大事なものを手放さなすようなことのない行動を取りましょうと、Instagram・ブログで伝えた。
・檀信徒には、手紙で、いつでもどこでもお念仏することの大切さを伝えている。
・寺報で自宅で坐禅や読経をしてみませんかとお勧めしました。

・不安な毎日のなかで、少しの時間、情報を遮断し、静かに坐ること（坐禅）を進めている。
・写仏ほど難しくないほとけさまのぬりえを描いてもらって心が穏やかになるように勧めています。
・蓮如上人の御文を拝読していただくことを、おすすめしています。変わってしまった現実をどう受け止めていくのか、御文を通して、学んでいます。
・檀信徒たちの仏壇に如来さまが不在であれば、お寺で印刷して額縁に入れた絵像をお送りして、手を合わせやすい環境を檀信徒と一緒にととのえるようにしています。

■今、仏教を伝える

例）・法話や寺報で「この一件から、私たちが気づかされることはないだろうか」という視点を持つことの提起をしている。（例：集まることは宗教の大事な機能だが、一方で単に集まる、すなわち形通りに法事を済ませただけで何か仏に向きあった気になっていなかったか。老病死とは、もとより個人の問題ではないのではなかったか。
・月参りは休止しているが、年忌の席では「今は本味をたずさえて去るのがよろしいでしょう」とミツバチを譬えにした釈迦の法句経からひいています。今は手洗いなどしっかりと取り組んで、心のなかで少しだけ心配しておくようすすめています。
・仏教の基本は「人生は苦である」ということであり、たとえコロナでなくても病・死はやってくるということ。そのことを無駄に終わらせない、人生を渡ってゆくみ教えに出遇うことが大切であることを、ご門徒には高齢者が多く、ネット発信では届かないので文章にして手紙にて送付するなどしています。
・寺院での法要や門徒家庭での年忌法要・在家報恩講師での法話において、感染予防についての啓発とともに、人々の心にウィルス感染への不安や恐れによって疑心暗鬼を生まれ、それが容易に偏見や差別を産み出していくことの恐ろしさを伝えている。その中で仏教を学ぶことの大切さ、特に「四諦八正道」の特に正見・正思惟・正語・正業を実践することがいま求められていると伝えている。
・法事、葬儀等の場で沢山の話をしておりますが、特に「仏教の思想では、コロナは病気の一種であり特別な物ではない。人間の根本苦である四苦つで、お釈迦様が人間はこの病苦から免れるすべは無いと説かれている。予防は充分にしなければならないが、この事によって自分達のしなければならない事を見失ってはならない」と伝えています。
・医学的な情報に関しては専門ではないため大手に言えない。しかし、法話において、「心」の感染症について説く。これからコロナウイルスとの共生を前提とした生活を余儀なくされるなか、新たな生活様式に適応できるよう、心の平安と他者への思い・祈り、三毒の戒めを特に伝えている。
・法事や月忌参りの席において、COVID－19 そのものは悪くはないが、その影響で右往左往してしまう人間側の課題として見ていくこと。また、この影響から、三毒煩悩が露わになってしまうことを口頭で伝えている。

■仏様・ご先祖様の尊さ

例)・法要を延期したり、ご参列される方が少なくて申し訳ないと感じている檀家様には、御先祖様は生きている我々が、元気に過ごしてくれる事を 1 番に願っているし、いつなんどきも我々を見守っていますと伝えている。

・阿弥陀様もご先祖様方も、こちらの世の事情を全てお分かりになったうえ、こちらの世で辛い日々を送る私たちを大切に思ってくださっているということ。お寺の法要に同席できずとも、手向けた気持ちは阿弥陀様が必ず極楽浄土の大切な方々にお届けくださるということ。

・自分の命は、先祖さんが過去の疫病、飢饉、戦争の中において生き抜いてくれたからある命。

■疫病と仏教

例)・新型コロナウイルス以降は、新たに蓮如上人の『疫癘の御文』を紹介しながら、地震・津波・台風・洪水・火山・飢饉・疫病と歴史上の出来事との関連性（ローマ・インカ・アステカ・モンゴル帝国や源平など）や、誰もが知っている神話・伝説・物語（大江の酒呑童子や桃太郎、モーセの十戒、ヤマタノオロチ）などを交えながら宗教との関連性（御霊会→祇園を代表とした夏祭りや立正安国論、御消息など）をお話し、不安に苛まれて無用に他人を責めず、まずはお念仏唱えて心を鎮めるなど心の健康の保持に努め、改めてこの瞬間を感謝しながら1日1日をしっかり共に生きていきましょうとお伝えしております。

・法話にて宗祖の生きた時代を振り返り、仏教と疫病とのかかわりから信仰の大切さを伝えている。

・流行病が流行った大昔に蓮如上人から門徒方へ宛てられた御文を寺報に書いて、月参りで配布。御門徒と味わっている。

・平安時代、疫病の流行った際、弘法大師は写経を嵯峨天皇に勧め、収まったことを伝えている。

・疫病とお念仏の繋がりを百万遍の話を交えて話している。

■情報、差別、不安と向き合う

例)・禅の「今・ここ」の心から援用し、膨大な情報の中で溺れないように、①自分がコントロールできること(手洗い等)にエネルギーを集中させる②メディアの情報に一定の枠を設ける(ずっとテレビを見たり、スマホを見たりせずに、時間もしくは決まった番組やサイトから情報を得る)③短い時間のスパンで考える(この 1 週間、今日一日等)といったことを伝えている。

・ジャータカ物語の『キンスカの木』のお話をして、溢れる情報や噂に流されずに本当の事を見る大切さを伝えています。

・他者を攻撃せず、根拠のない情報に振り回されないように。TV やネットの情報は必ずしも真っ当ではないという視点を持つこと。

・寺報・掲示板・ＳＮＳで、感染者・医療者差別について発信しています。

・疑心暗鬼に囚われず、根拠の乏しい噂話に惑わされず、冷静に対処することを伝えている。

・月まいり後の雑談の中で、基本的には不安な気持ちを話し合い共有しているのですが、「誰でもかかる可能性のあるもの。予防は大事だけれど、かかった人が悪いように責めるのは違うのではないか？」ということはお話ししています。
・春季彼岸法要の中止を知らせる手紙の中や SNS で、予防に必要なこと、情報に過度に振り回されないこと、人を差別や分断に追い込むようなことが無いように互いに留意することなどを伝えた。
・マスクの買い占め等、特殊な状況だからこそ見えた人の本質について感じたことがあり、最近はそれを絡めた話をしている。
・コロナに負けるなではなく、恐れに負けるな。何に恐怖を感じているかまず気づいて、恐れに飲み込まれないようにしよう。
・不安であることを認めてあげて、不安を打ち消そうとして変な行動（買いだめとか他人への攻撃とか）を取らないようにする。
・わからない事はわからない。心配するのは必要だがしすぎると自分の心は痛む。

■寄り添い

例）・疫病退散の御朱印をお配りし、不安があれば電話してくださいねということはお伝えしています。
・毎月の行事を行えずお元気か確認できないため、一人暮らしのお年寄りには時々お電話しています。ただお話ししているだけですが……
・伝道ハガキでコロナがらみの法語を伝えている。また、不安なことや、疑問や判断に迷っていることがあれば、遠慮なく、まず当寺に声をかけてほしいと書いている。
・メールでご不安と、不自由なことをお聞きしています。

■日常のありがたさ

例）・日常性の有難さ、当たり前だと思っていることが当たり前ではないことに気づくことの重要性を掲示板、法話で話しています。外出を自粛して、感染の恐怖を感じている苦しい時こそ、自分の人生を見つめ感性を磨くことが重要です。安全で、豊かで、便利な日常生活こそが決して当たり前でなく、人知を超えた様々な条件に支えられている神秘そのものであるということを伝えています。
・ネット法話で、疫病をむやみにおそれず一日一日を大切に生きることを勧めている。
・葬儀や法事の際の法話で、「当たり前にやっていたことができなくなっている。当たり前のことのありがたさに気づいてほしい」と説いている。
・動画や文章などのオンラインの場で、コロナによっての意識変革がおきること（当たり前が当たり前ではないことを全世界で実感している。生きる意味を問い直すような機会になっている）、感謝や今を大切に生きることの重要性などを発信しています。

■利他・他者とのつながり

例）・誰が感染するかわからない状況なので、感染した場合のことを考えてお互いに支え合える関係作りを今のうちからしておきましょうとお伝えしています。

・被害者と思えば刃に囲まれ疑いと孤独に苦しむ。自分が刃だと思えばお互い様といたわりながら穏やかに過ごせると伝えてます。

・寺報やSNS、ホームページで利他による自身の心の安穏を伝えている。

・法話の中で、恐怖・不安にとらわれ過ぎないこと、こういう時こそ他者を思いやることの大切さを説いている。

・冷静であること、正しく思うこと、正しくふるまうこと。今は対立よりも共感と協調に重きを置くこと。

・法話や寺報にて、困っているお互い様であるからこそ、見張るのではなく、助け合うことをお伝えしています。この世はそもそも思うようにならぬ苦しみの世界であることに気づき、いま目の前に存在する大切な人や環境、良い状態などの尊さに気づいていただけるように促しています。

・なにもできなくなった現状を、嘆くばかりでなく、だからこそ気づくことのできた人や地域の繋がりを大切に記憶してくださいと、伝えている。

■乗り越えられる

例）・健康管理と予防していけば必ず終息することを伝えている。

・困難の嵐は、ご先祖様方も様々な試練を乗り越えてきたのだから、私達も乗り越えられると伝えています。

・彼岸の法話チラシで、流行病は昔からありそれを人は克服してきたこと。流されずに物事を見ていこう。あらぬ差別心が湧いてくる出来事だということ。

■コロナウイルスの情報・対策

例）・ネットの配信で日々変わるコロナ情報を発信、仏教の視点での見解も添えています。ブログを書いています。フェースブック、Twitter、WhatsApp、ミクシなどでシェアしています。

・常に新型コロナウイルスの最新の研究成果を把握する様にしている。また情報に疎い高齢の檀家には状況説明とマスクの着用を促している。マスク未着用者にはマスクを配布している。

・当地はまだ感染者が確認されていないが、目に見えない存在であること、感染していても症状が出ないこともあることを伝え、自身での予防に意識を高めるよう伝えている。

・毎月の会報やブログにて、長く続くと思うので、頑張り過ぎないこと、を主に伝えています。

・お互いに気をつけましょうと、毎月、電話とメールで声掛けをしている。

・バランスをとりながら（結核やインフルエンザの死者数との比較、医療資源の浪費を避ける、安全と安心の区別など）、警戒を怠らないことを伝えるよう、心がけている。「うつされたくない」と「うつしたくない」は、どちらも誰かを守る尊い気持ちであること。

・手を洗いマスクをし、不用不急の外出を控えること。出かける際には三密を避けるようにす

ること。不安を抱かずに今日のこの日のこの状態が日常だと心得て安心の行動をすること。自分自身が感染しないように心がけ対策することが、他者に対する私たちのできるもっとも有効な利他の行いになるということ。マスクを作ろうと材料を買いに外へ出るよりも、なにもせずに出かけないことの方がはるかに社会や他者のためになるということを勧めております。

■その他

例）・伝える手段が電話かファクス。何故なら施主様の年齢層が 70～80 代、若い方で 60 歳前後。スマホ、パソコンアドレスが分かりません。

・日常会話にあえて絞っている、僧侶はその職業上不安な話題を不安なまま伝えてはならない。

・「忍 Stay Home」と墨書し掲示。

・人の力でどうにもならない事もあり、それについて思い悩んでも仕方がない。ただ、そのためにまずできる事を探すのは大事で、それを行っている事について、他人にとやかく言われても気にすることはない。

（１２）あなたが今後取り組んでいきたいと考えていることについてお尋ねします。新型コロナウイルスに関して、檀家・門徒・信徒を問わず、人々にこれから伝えたいと思うことはありますか。あれば、どのような方法でどのようなことを伝えたいか教えてください。
（245 名から回答）

■方法・媒体による分類（複数記載可、記載のあるもののみ）

紙媒体	40	
①寺報	17	（寺報 15・会報 1・広報誌 1）
②郵便物	6	（手紙 3・ハガキ 3）
③掲示板	8	
④その他	9	（文書・紙媒体 6・宗門新聞・宗報 2・パンフレット掲示 1）
インターネット	93	
⑤HP・ブログ	30	（ホームページ 28・ブログ 2）
⑥メール	1	
⑦SNS	42	（Facebok5・LINE2・Instagram1・Twitter1・SNS（詳細なし）33）
⑧その他	20	（YouTube3・（以下、詳細なし）オンライン 10・インターネット 5・Web 媒体 1・電子媒体 1）
口頭	24	
⑨法事・法話	19	
⑩月参り	3	
⑪その他	2	（電話 2・ラジオ 1）
⑫その他	2	（テンプルモーニング 1・ボランティア活動 1）

■今だからこそ

例）・怒りや偏見に呑まれずに、今こそ自分を調えてゆくこと、そのために坐禅や写経というような実践行を勧めてゆきます。
・感染は心配ではありますが、引きこもっていては精神的に良くないので話をすること、体を動かすことや不安と向き合う大切さを。
・死にたいしてリアリティを感じる時期だからこそ家族で人生会議をしていこう。
・見えない部分を感じられる、信じられる力を伸ばす、人間力の成長という部分で宗教の大切さを痛感した。損得感情が先行する現代において、どれだけ自分がすすんで損をできるか、布施をはじめとする六波羅蜜という修行をその意味合いを改めて檀信徒にはお伝えしていきたい。
・病と闘う、病に勝った、病に負けたという言葉がよく聞かれるが、人間の価値判断に囚われることが苦の原因であること。

・こうした問題に直面した時こその宗教心の大切さをともに共有することを様々な機会に伝えたい。
・ままならない時ほど「自分だけは」としがみつく手を離し、他に施すよう伝えます。

■仏様の尊さ

例）・本尊の加護が先祖の支えが変わらずに傍にあることを、毎日の勤行や檀信徒の墓参時などで感じてもらいたい。
・新型コロナウイルス蔓延により、無常観、病苦死苦が目の前に迫ってきたことを皆が強く感じている昨今かと考えます。その中で阿弥陀様の大慈悲、お念仏の有り難さを説いていけたらと考えております。
・大切な人との別れは、いつやってくるかわからず、かけがえのないものであるからこそ、今隣り合う人との一瞬も無駄にせずに生きてもらうことをお伝えしたいです。また、どんな最期を迎えるかわからないからこそ、生きているうちから、しっかりと如来さまに心を傾けることが肝要であることをお伝えしたいです。あとは、不安なことは尽きぬからこそ、常に如来さまをそばに感じられるお念佛の大切さを身をもって感じていただけるように努めたいです。

■情報に踊らされない、差別をしない

例）・人は不安に駆られたときに驚くような行動をすることがある。不安や恐怖という心をよく観察しコントロールする訓練が仏教だと言うことをあらゆる方法で伝えたい。
・人々の分断を生む風潮をなんとかしたい。コロナ差別や、過剰な防衛や、誹謗中傷について心を痛めている。
・利己主義の言葉は混乱を招き、本質を見失うことを伝えたい。
・コロナウイルスにより、政府を批判したり、感染者を批判したり、また感染に繋がるような営業をしている所に対して批判を行ったり、自らの愚かな行動を省みる機会になったことを伝えていきたい。
・決して楽観視してはいけませんが、「正しく恐れる」ということを今回自分自身も学ばせていただきました。目先のよく分からない情報に惑わされないように、例えそれが善意から生まれたものであっても慎重に扱う必要があると肝に銘じたいと思います。

■日々を大切に生きる、日常のありがたさ

例）・いつどうなるか分からない世界に生きている中で希望を持ってよく生きることを伝えたい。
・本当の生活、本当に生きることとは、経済や便利さであったのか、家でぼんやり過ごした数カ月は、むだであったのか？また、思い通りに生きていくことが、はたして幸せなのか？
・非常時であってもいつも通り「朝のお勤めから始まる寺の生活」を続けることも、仏教者として、さらには信徒の安心のためにも重要だと思う。
・今まで当たり前だった日常は当たり前ではないという気づきを説いていきたい。

■コロナウイルスについて

例)・コロナウイルスを「絶対悪」と捉えず、我々の日々の生活を問い直すきっかけとして考えたい。

・ウイルスから過度に恐れる必要のない旨を発信していきたい。

・感染することで自分の命だけでなく周囲の存在に対しても命の危険を高めることとなるので、予防策を講じる等の意識をしっかり持つことを勧めていきたい。

■人とのつながり

例)・すべての人を想って生活するというあたりまえの事が、ウイルス対策にもあるという事。

・改めて人と人とのつながりが大切であること、人との関係性の軸に仏教、信仰心があることが大切であることを伝えていきたいです。

・人と人との距離、ソーシャル‐ディスタンスはとっても、心のつながりは切らさないように。

■乗り越えられる

例)・これまで人類の歴史においてペスト・コレラ・黄熱病・天然痘やスペイン風邪によって多くの犠牲を出しながらも、それらを乗り越えてきた先人達の歴史を私達は受け継いでいるのだから、夜明けのない夜が無いように、きっと未来は明るいと信じて、みんなが助け合いながら支え合いながら共に生きて行こうと、仏教者・念仏者として伝えていきたい。

・思うようにはならない人生も、工夫をすれば人生も運命も自分自身も変えられるという事を伝えていきたい。

■寄り添う

例)・聞いている人の職業や立場によって受け止められ方が異なることを念頭に置いたうえ、相手の立場に寄り添う法話を心がけたい。

・既に自死者も出てる状況であるので、追い詰められた気持ちを受け止めるようにありたい。差別や分断を助長するものからは離れ、人の繋がりを意識することを伝えたい。

■その他

例)・外出自粛の中で、対人関係に依存していた自分に気づきました。自分の孤独や不安を紛らわせるために人と会ったり、話したり、音楽に興じたりしていたように思います。不安や恐怖にしっかりと向き合うことが大切だと思います。辛いことを避けずに、自分の非力さや限界を認めたうえで、何が可能かを考えていきたい。薄っぺらな正義感・虚栄心・優越感を満足させる行為を慎み、怒りに振り回されないように自分の考え方を冷静に保つことを心掛けたいと思います。

・「人間はいつか必ず死ぬ」という事実を、平時の時にこそ、宗教者がはっきりと言い続けなくてはならないという思いを今回、強くしました。このような緊急事態になってからは、その事実をはっきり述べること当然できませんが、その事実を日ごろから頭の片隅に定期的に

置いておくことができたならば、今回のようなウィルスに対しても過剰なほどの恐怖心に覆われることなく、冷静にウィルスを恐れることができるのではないかと考えました。（が、この考えに、自信はありません。）

・良寛さんの言葉（死ぬる時節には死ぬがよく候）を通じて、「諦む」ことを伝えたいと思いますが、掲示板には怒られそうで書けませんでした。今も方法はわかりません。

・非日常と日常の逆転を生き抜かれた祖師方の生様を現代人は見直す時だと考えます。

・起こったこと(現象)を良い縁にするか、悪い縁にするかは自分の心がけ次第。身体だけでなく心も健康でいられるように様々な方法でお手伝いしていきたい

（１３）上記以外にご意見やご感想等ございましたら自由にお書きください。
（158 名から回答）

■覚悟・心構え

例）・僧侶即布教師。平時からちゃんと僧侶として活動していれば　災害時でも基本は変わらない。全ての僧がスーパー坊主たるのは無理。所詮人間なので、檀家、信徒、希望者、手の届く範囲を全力で臨む。

・聖武天皇は天然痘の大流行後に国分寺、さらに明日への希望と祈りの対象として盧舎那仏の造立に全国民に協力要請をされました。約九年の歳月をかけ、1300 年の時を経ても堂々たる姿で国民の誇りであり続けている大仏が完成されました。現在では治療薬の開発や公衆衛生の知見は蓄積されるでしょうが、心のよりどころや文化の象徴的な存在となる大仏を建立することは不可能でしょう。病気対策としては医療関係者が命を懸けて尽力されています。生活保障は政治家に頑張ってもらうしかありません。現代の宗教者に何が可能かを自らが問い、納得してもらう答えを言葉と行動で示すことができるか否かが問われていると思います。

・今回のことを機に、幸福のあり方を見直す風潮が増して、地方に目や足が向くことを期待していますし、町内の幸せな雰囲気作りのために尽力していきたいと思います。

・過剰に反応しないこと。長い歴史の中で、さまざまな困難も変化も私たちは経験してきました。諸行無常の世の中なのだから、私たちもそれを冷静に受け止めなければなりませんよね。宗派的な考えも大事ですけれど、四諦・八正道といった根本的な所を見つめ直してみたいと思っています。変化は恐ろしいこともありますが、希望もあるかも知れません。

・今回の出来事は、大切な気付きを私達に与えていただけた事のほうが大きいと思います。ひとり一人がその気付きをキャッチし、プラスと変え未来にこの継がれた命を繋ぐ架け橋となりたいです。

・地域での存在感を出す為にスローガンを載せたロゴマークを作成しました。地域での存在感が薄れると新型コロナ禍後、求心力が薄れて寺院運営に影響が出かねないので、やれることはやり、新しいことを取り入れてこの状況に順応していくよう努力するタイミングだと思います。取り返しのつかない差が出来る前に頑張って行こうと思います。

・社会の混乱は、停滞していたものに対する変化を促し、その変化を許容させる下地を作る。オンライン化が遅々として進まなかった学校の授業は、コロナ禍により一気に加速した。それは、休校中の子供たちだけでなく、今まで不登校や病気などで学校に行けなかった子供たちに学ぶ機会を与えるものになるはずである。同様に、お寺のオンライン化がこれまで奨励されることはなかったが、このコロナ禍を契機に、今まで仕方ないと諦めてきた人が画面越しにでも参列できるようになったとも考えられる。決してデジタルに強いわけではないが、それを理由に聞法の機会を奪うことはあってはならないと思い、日々パソコンとにらめっこしている。

・改めて僧侶の生き方、修業の毎日であることを自らが実践し、その生き方そのものが人々への信頼回復に繋がるものと思う。0 からの出発ともう一度自身を見直す機会として捉えるよ

うにしている。

・非常時だからこそ考えること、アイディアが生まれているが、平常に戻ってもそれらのアイディアを持続し、実践していきたい。人間は喉元すぎればなんとやらで、すぐに忘れてしまうので、忘れないようにしたい。

・大きな災害や新型コロナウィルスのような事が起きると、お寺によってはさらに寺離れが進むように思います。お寺として、僧侶として、寺庭として何をすべきか、日頃の姿勢が問われているように感じます。お寺を中心に支え合える地域社会を築いていきたいと思います。

・儀礼の簡素化が進むと思うが、その反面、対面による儀式の意義が再確認されると推測している。時代に合わせて、新たなスタイルを作っていくしかないと感じている。

・人々は現代の宗教離れに伴い寺院を観光地と勘違いしている節があると感じております。このような時代だからこそ宗教や信仰がいかに人の心を支え寄り添えるかをわかってもらいたいです。祈ることの大切さを伝えたいです。

・これは、各自が改めて自分事として「新型コロナウイルス」しいては「死」というものと、どう向き合っていくかが問われるようになったということだと思います。その意味では、新しい時代に入ったといえます。

・望む望まざるに関わらず、一足飛びで突入したこの社会に、取り残されてしまう方がいるのは必至であり、そうした方を地域社会の中から「見つけて」「伴走する」あるいは「ともに考える」のが、各地にいる宗教者の役割だと若輩ながら思っております。

・寺と僧侶の意識の低さを痛感。伝えたいと思うものを果たしてもっていたのか。葬儀法事をなぜ勤めるかをこちらがはっきりしておかないといけない。ただの経済的な話ならば無くされるのは当然。今に始まってない。色々なことを見直すきっかけにするしかない。

・寺にいる者自身が、寺の存在意義をどう考えているか、仏教をどういただいているかどうかが、今後に大きく関わっていくと思う。

・私自身の会議や集まりが無くなり、お寺の中で過ごし境内で掃除をしていると、こんな田舎でも散歩などでお寺の前を通る方が意外といることに気が付きました。そういう方に向け法語でお伝えできることがあると思い言葉を考えています。コロナは勝ち負けではなく、コロナによって人間の罪業性が炙り出され問われているのだと思います。そこに目を向けなければ今後どのような問題が起こっても仏教の教えと世間の考えの違いがなくなってしまい、仏教自体価値も無くなっていく恐れがあります。世界の問題としてのコロナに僧侶の姿勢が問われています。

・昔から行われてきた形骸化した習慣の部分を、生死の問題等仏法の本質を聴いていく本来の仏事に戻すチャンス、と考えて取り組みたい。ただ、どのような取り組みが出来るかが具体的なことを見つけるのが難しい。

・寺院が試されていると思います。良い意味で淘汰され社会に無用な僧侶や寺院はなくなっていくと思う。各宗派も今後真の意味での信仰と教化や人間の迷い苦しみに手を差し伸べることができる。またそう期待される試みを連携して取り組んでいく必要がある。

・コロナのあとは、以前の経済大国にもどることを目標に復興する、という方向は日本の仏教

者は絶対とってはならない。新自由主義を猛省して本来の人間として心豊かな国にしていかねばならない。仏教はこここそが出番、という世論を作っていかねばならないと思う。

・いろんな宗派でいろんな活動をされていると思いますので、それぞれで出来ることやるべきこと。やっていることが見えると面白いし、こういう時代だからこそ「宗教」とは何かを再確認する機会にしたいし、こういう時代だからこそ伝わる事もあると思います。

・仕事や家や家族を失い、自身の命を自ら断とうとするほどに絶望した人たちに、しっかりと向き合えるように、受け皿となるための取り組みを考えたいです。

・感染症が流行しているから特別に何かをするというわけでもなく、今後のために劇的に何かを変えるわけでもありませんが、檀信徒や参拝者との普段のコミュニケーションが重要だと改めて感じています。

・このような状況下でも、我々がお参りに行くのを待っていて下さる方、喜んで下さる方、心配してお寺にマスクや消毒液を寄付して下さる方がいます。大変に有難く感謝しています。寺院護持のため、より一層努力しなくてはと決意を新たにしました。

・今のような時こそ仏教の素晴らしさや法話の大切さを実感している。今の時間を丁寧に過ごさなければならない。

・こんな時期だから僧侶は行動しなければならないと思います。お寺はいつの時代もどんな状況でもハッピークラスターな場所で在るべきと考えます。

・これまでのコロナウィルス以前のお寺の法務、運営のあり方を再検討し、発信方法も時代に見合ったものに変化していかねばと考えています。

■経営的不安・課題

例)・政府のコロナ対策について、声を上げたものだけは対応改善する傾向があるように思う。こと公益宗教法人については持続化給付金制度の対象外となり、収益事業関連については対象という、何とも本末転倒な結果となっている。政教分離原則論を盾としても、相当程度を超えない範囲においては、政教分離原則を唱える憲法違反とはならないにも関わらず、何かを恐れてか、政治家識者等、宗教法人に対しての救済論は一切出てこない。持続化給付金制度の趣旨からして、宗教法人にも適用される雇用調整助成金制度と同様であることは明白であり、特定の宗教団体を支援するものでもないので、一律の制度として特例を設けず一法人一被雇用者を救済して欲しい。対面的活動が多い分野にて、多くの寺院が苦境に立っていると思います。

・寺院は収入の証明が難しいが、何とか受けられる補償が出てきて欲しい。

・持続化給付金に宗教法人も対象としていただきたい。

・時代の流れの中で、寺院の存在意義、法要の形、門信徒との付き合い方などが変化してきたが、今回のコロナ禍でそれが加速するように思う。この急な変化に対応できない寺院は、淘汰されていくのではないだろうか。

・収入が激減し、今後も自粛が続くと寺院経営が危うくなる。綺麗事ではどうにもならない。宗教法人には助成金や補助金が無いのか？少なくとも本山への義務金の免除など、このよう

な調査結果を踏まえて、各宗派本山へ呼び掛けていただきたい！

・このままでは、中小企業同様…寺院も運営が難しいです。お寺を護寺する経費は当然かかり続ける。寺院収入は減るが……光熱水費や本山経常費(付加金)は当たり前の様にやってくる。本山にも切迫した地方の寺院現実を理解して貰いたいが…正直言えません。

・法務が減り、寺院運営の基盤が揺れている中、本山からは通常通りに近い御依頼金がくるのではないかという心配が大きい。「猶予期間を設ける」のではなく、本山の大幅な歳出削減による御依頼金の減額、末寺の負担軽減策が必須と考えるが……。

・大きいお寺は雇用保険への加入が可能だが、小さいお寺は不可能であり、今回のような政府による休業要請等の事態になった際、お寺への保証等は一切ないのが現状。お寺は宗教法人であり、布施による存在形態であることは十分理解できますが、こうした事態への宗派等の対応のあり方はもっと議論があっていいのでないかと思います。ネット配信も、今後法話を無料で見られるということになれば、お寺を維持することにとってどうなのかということを感じます。

・自粛・簡略化に伴う『葬儀社主導』は、自ら招く寺院消滅の危機ですね。散骨、樹木葬も、先祖供養の心を削ぐ顕著なものかと。実際都市部では、大規模な納骨システムが危機的状況でしょう⁉田舎はまだしも、都市部でそれが横行するのは如何なものかと思います。田舎は真似しますから。

・拙僧は今回の騒動が一過性のものに終わらないと考えている。おそらくこの騒動を切掛にして棚上げされてきた寺院の問題が表面化するのではないかと踏んでいる。例えば、核家族化に伴う菩提寺との疎遠、寺族によるどんぶり勘定に伴う不正確な収支計算と予算組み、葬式・参拝・付け届け便りの寺院財源の揺らぎ、人々の新たな死生観の拍車と菩提寺との関係希薄化、などの問題である。今まで宗教界において当たり前、当然、常識とされていたことが通用しなくなる日が来よう。今はコロナ終息のために感染拡大防止を最優先にするのは当然であるが、今後必ず次の時代を本格的に見据えなければならない。ただ、本来ならば伝統的な方式で運営していきたい……すぐに改革するなど内心抵抗がある……少しずつでも調整して生き残り策を模索し続けなければ、中小寺院は寂れてしまうだろう。このような緊張感が日々張り巡らされている今日この頃です。

■オンライン化への危惧

例)・コロナウイルスの蔓延により、今後リモート会議や、もしかしたらインターネット法事、葬儀等あるうるかもしれない。コロナウイルスの蔓延を防ぎながらお寺が存続するためには致し方が無いと思う。その上でインターネットでのやり取り等をするにあたり、安価で多くの方にも簡単で使いやすいアプリやソフトが開発されることを望みます。しかしながら、批判もあるかもしれないが、収束後も同様にこのようなやり方を続けるのではなく、ウイルスの流行に照らし合わせながら、昔ながらのやり方、寺院に招いての読経や各お宅を回る棚経などはやめてはいけないと思う。時代遅れな考え方かもしれないが、近い距離での向こう三軒両隣的な人間関係こそが寺院の強みだと思う。法要、法式などの際の僧侶との相談などは檀

家さんにとっての貴重な相談の場所だと思う。また、私もそうだが、お年寄りや子ども、障がい者等の中にはタブレット端末やPCが得意ではない方もいて、費用も高価でエンドユーザーの方々には使い勝手が良いものであるとは思わない。

・情報伝達にネット活用は有効ですが、その伝道内容や姿勢が問われると思います。

・オンライン化（法要の動画配信や、リモート葬儀など）の動きは、新たな布教方法として寺院にうかがえない檀信徒の望みにも応えることが出来、確かに良い試みであるとは思います。しかし、これを機に「寺院に行かなくても、オンラインで済ませればいいじゃないか」となってしまうのではないかとの不安もあります。また、会席などが減少することで、縁の希薄化などが促進され、家の継承観念が檀家の存続に影響を及ぼすのではないかという点も懸念しております。

・新たな試みをすることは大切に思いますが、一方でオンライン等への移行が檀信徒を置き去りにすることになるのでは、という心配もあります。

・今回の騒動で、動画配信やライブ中継などデジタルなものに飛びつく人が増えると思うのですが、本堂の空気感など実際に行かないと味わえない部分を忘れてはいけないと思います。使い方を間違えて大事な物を失うのではと危惧しています。

・ネットは便利ではありますが、高齢者やネット環境を持たない人には伝わりにくいので、電話、葉書や手紙と言った以前からある伝達方法で地道に活動して行きたい。

・ウェブ経由は代替手段でしかないが、それが常態化するのを危惧しています。

■危機感・不安

例）・コロナウイルス感染、及び、コロナウイルス終息あとに本当に仏教は必要なのか。危険をおかしてまで参拝する必要、葬儀をする必要があるのかと問われたとき、答える言葉が見つからない。

・この地域では、歴史的に、寺院は、信仰の最前線というよりは、地域の結束の象徴であった。それが、地域の役割が縮小するとともに、寺院の存在意義が失われてきている。コロナはきっかけではなく、トドメであるように感じる。

・生活様式が変われば信仰の保ち方も変わるでしょう。お寺(住職)が柔軟に対応できなければ、門徒も信仰を保ちにくくなるかもしれません。

・お寺は日々の売上げや家賃の心配をする必要がない反面、先々のことが不安です。何百年続いてきた法要の在り方がガラッと変わってしまうのか、これを機に寺離れが一気に進むのではないかという懸念があります。通勤→在宅勤務のような、抜本的な変化を強いられるのか、私が新しい潮流に乗れるのか、不安です。

・お寺づくりを始めている最中にあって、形態を変えての活動は考えられるが、場所としてのお寺という存在が問われることになったと思う。ご門徒と共に確かめ合える関係を築いていくことが重要と痛感する。それが出来なければ、当寺（開教所）の場合、大変危機的な状況になる。

・現時点では緊急対応のため致し方ない所も多いが、伝統的な法要・法事や法話のやり方が根

本的に変わってしまう可能性があると思っており、ますます仏事ごとが敬遠される風潮になりはしないかと危惧している。科学的合理的なウィルス対策と、仏法によるこころの安定を両立していく必要があると思っている。

・宗教的な価値観が求められる時代に突入した感じします。しかし、その価値観を求める方が多くおられても、伝達手段が、過去のままでは、手も足も出ないと痛切に感じています。新しい価値観の中、新しい伝達方法をどう模索していくかが課題です。また、諸行無常で、情報が刻々と変化していく中、お寺の対応も変化させなければなりませんが、間違うこともあると懸念しています。

・ポストコロナ時代の寺院が置かれている状況は、さらに厳しくなると考えています。基本的に最終決定者の住職は高齢である場合が多く、この変化への対応は困難になると思います。

・うちのお寺の住職夫婦は 70 代で持病持ちです。お寺の今後を憂う気持ち、焦る気持ちと同時に寺族の感染の恐怖があります。しかしやはりその歳の人ほどお寺にいらっしゃる方を拒むことを良しとはしません。法要を Web で流したり、リモートで法要を行うことも同じくです。地方はどこもそうではないでしょうか。世代交代の危惧。そしてこれまでかろうじてお寺が守ってきた価値観、美学が一新されてしまう危惧が彼らにはある気がします。

・葬儀は中止や延期に出来ない、してはいけないものであるということを改めて認識し、どのような状況であっても勤めなければならないものだと考えさせられた。今までが当たり前だったことが今回のようなことにより、気付かされた。葬儀、法要は 3 密ではないかと檀家さんから指摘があればどのように対応するのが一番安全で安心なのか、亡くなった方へのご供養を心穏やかに落ち着いて行いたいという気持ちは感染するかもしれないという不安によって守られないのではないか。

・国家と宗教がどう関わっていくのか、不安。

■連携への期待

例）・僧侶や宗教界が協力して連携していけるように様々な取り組みをしていきたい。

・業界全体が衰退していかないように、今後の仏事のあり方など、話し合ったり、識者たちが話している場で勉強していく事などが必要だと思っています。

・寺院のみならず宗教全体の存亡に関わる出来事です。各寺院が成り立たなければ、宗派及び総大本山も経済的に困窮し、厳しい状況に陥ります。宗派宗教を超えた対応が必要です。

■宗門への期待・不満

例）・寺院も各宗派の本山がもう少し対応を早くすべきと思います。うちの宗派は自民党に輪をかけて対応が後手後手なんです。

・釈尊や先師の経験には感染症と類似した事柄から対応策の教えが説かれている部分もあるが、僧侶が学んでいないからか仏教者の意見が世の中には出てこない。寺院単位でもそうだが宗派としても何もないことは如何かと思う。

・本山への納付金減額とか、横の連携で全宗派に流れをつけられませんか？

・法要中止や葬儀の簡素化等により寺の収入も減っているので、調査や支援策を検討しても良いのではないか。また、今回の法要中止や葬儀簡素化がコロナウイルスが収まってからも続いてしまわないよう僧侶及び本山や大学等、知恵を出しあい共有することが重要。
・宗庁がもっと率先して各寺院を護るための対策や支援を打ち出し、広報しなければいけない。経済の悪化と葬送儀礼の縮小化で今後ますます寺院運営が厳しくなることが予想されるなかで、これまでのような放任主義的なありかたを改めるべきだと感じております。
・宗門からコロナ禍について、社会へのメッセージが出ないです。また、組織としてコロナ対策が遅すぎる。未だに NetMeeting さえ行えない。残念に感じています。
・宗派からも非常事態時に出来る事の指標など今後に活かせる情報の作成やアクションが有っても良いと思う。

■その他

例）・我々僧侶は、日々お亡くなりになった方の一報に触れ、故人様を前にしているので「死」というものが生活に密着しているといえます。しかしながら、それこそ「死」というものに全く免疫のない方には、日々のニュース等で「死が可視化された」ことで、不安や恐怖が倍増されたという方もおられるかと推察されます。
・個人的な意見ですが、「コロナウイルスでなくても、人はいつか必ず死ぬ」という発信をすることは不適切と感じます。「コロナウイルスでなくても～」というのなら、コロナウイルスが原因で亡くなる方がいらっしゃるのも事実です。コロナウイルスに感染して闘病しておられる方、収入が激減して明日生活できるかわからない方の前で同じことが言えるでしょうか？実際にそのような発言をしている僧侶を何人か見かけましたが、安全なところから他人事のように眺めているような気がしてなりません。
・不要不急の外出自粛と県境を越えての移動はコロナ感染の恐れがあるとして葬儀への出仕を拒否したなさけない寺がある。私は代理を葬儀社に頼まれて葬儀社の担当とあきれ果てた。
・不要不急は控えてと要請されている中で生活し門徒さんの声を聞く中で、不要不急なことが人間の生活を支えていたと思いました。真宗の最大の行事の報恩講でさえ不要不急なこと、こう言うと真面目な真宗僧侶から怒られそうだが、不要不急のことこそ人間の生活を豊かにしているのではないか。